# キノブックス文庫

編集者かわら版

9号

19.4.9

佐藤哲也著『シンドローム』

『担当』

寺谷

イチローといえば、
2009WBC決勝での
センター返しが忘れられません。

## 消えた一文

編集者の役得のひとつに、「表に出ない（出る前の）原稿を目にすることができる」があります。

今回文庫化するにあたって、佐藤さんに単行本になる前の、いわば草稿のようなデータをお送りいただきました。

それは、漢字か平仮名か、というような細部の違いはあるものの、単行本時の原稿とほとんど同じものでした。

ですが、一ヶ所だけ大きな変更があったのです。

それは、「六日目」の最後にありました。

読者の皆さま、本文263ページをご覧下さい。

寝る前に久保田にもう一度メールを送った。
しばらくしてから、返信があった。
――おやすみなさい。

無事に帰宅した主人公と彼が心を寄せる久保田がメールのやりとりをするシーンです。

最後の一文「――おやすみなさい。」は久保田からのリプライです。

さて、主人公は久保田に何と送ったのでしょう？

どういう文面に対しての「――おやすみなさい。」だったのでしょう？

実は、その答えとなる一文が草稿にはあったのです！

佐藤さんはテキストのバランスを見て削除の判断をされたようなのですが、この一文が「消えた」ことで、読者が想像を働かせる「余白」が生まれました。

（裏面へ）

「安心してください。もちろん、ここに答えは書きません。
ありがたいことに、そしてある種残念なことに、
私はその答えを知っています。
ですが、読者の皆さまはどうぞ各々の「答え」を
思いめぐらせてください。

ものすごく長文で
見たい映画の話をしたかもしれないし、この数日の恐怖を
回想していたかもしれない、あえて突き放すような冷たい
メールだったかもしれません。そのそれぞれで久保田の
「おやすみなさい。」が主人公に与える影響は変わってきます。
さあ、おもしろくなってきました。
もう一度ロンドンドローム「の世界へ行ってらっしゃいませ。

キノブックス文庫